



緊急出動に憂いなし！（玖珠消防署）

議会だより **ここのえ**

発行／九重町議会
 編集／議会広報特別委員会
 平成26年7月17日
 〒879-4895 大分県玖珠郡九重町大字後野上8番地の1
 ☎ 0973-76-3814・FAX 0973-76-3809
 メールアドレス（議会事務局）gikai@town.kokonoe.lg.jp.

No.106 2014.7.17発行

6月定例会

●平成26年度補正予算	P.2
●常任委員会報告	P.3
●一般質問 6名	P.4
●研修報告	P.10
●わたしのひとこと	P.11

野上西 河野 安代^{さん}
 中村上 有吉富士男^{さん}

平成26年 第2回定例会

本定例会は6月10日から6月23日までの14日間開催されました。

諮問1件、報告1件、議案6件、発議2件、請願1件、陳情3件を慎重に審議しました。

平成26年度一般会計補正予算(第2号)

補正額
補正後の額

6,999万円増額
70億8,199万円

◆ 補正予算ピックアップ ◆

歳入

- 町有施設整備基金繰入金 3,400万円
(町の貯金を使用)
- 消防債(借入金) 2,970万円
約70%地方交付税に反映されます。
消防本部が行う予定の債務を構成する自治体
(日田市、玖珠町、九重町)が行うことで、
条件の良い債務に変更できるため。



恵良駅の通学風景

歳出

- 恵良駅舎兼先哲資料館建設事業費 3,400万円
(財源) 左記町有施設整備基金
駅舎と麻生勘八翁を顕彰する資料館を建設
駅舎の土地は町有地、資料館の土地は
八鹿酒造株式会社からの寄付
- 玖珠消防施設整備事業負担金 2,402万円
(財源) 左記消防債
- 商工会商品券事業補助金 50万円
(財源) 県費49万円、町費1万円
県の「元気創出プレミアム商品券支援事業」
当初予算の商品券事業補助金500万円(町費)
に追加

補正予算質疑

Q 恵良駅兼先哲資料館の管理は。

A 管理は、業務委託を考
えている。

Q 放課後児童健全育成事
業委託で、野上と南山田

地区の夏休みのボラン
ティアへの補正である
が、他地区からの要望は
無かったのか。

A 飯田と東飯田地区にも
調査したが、本年度は要
望しないとの解答をいた
だいている。

Q 学校運営体制の構築に
向けた調査研究補助金で
あるが、具体的な目的と
施策は。

A 学園構想を主眼に置
き、学校間の連携を構築
するために補助金を活用
する。

みなさんの ご意見が こうなりました。

請願

大分県教職員組合玖珠支部執行委員長 穴井有司氏、九重町PTA連合会会長 右田昭二氏ほか、九重町小中学校PTA会長一同からの「少人数学級の推進など定数改善、義務教育費国庫負担制度2分の1復元に係る意見書の提出に関する請願」

子どもたち一人ひとりにゆたかな教育環境を整備するため、30人以下学級とすることや、教育の機会均等と水準の維持向上をはかるため義務教育費国庫負担制度の国負担割合を2分の1に還元するとともに、制度の拡充を行うことを求めるもので、憲法の保障する教育の機会均等の観点からも請願の趣旨は理解できることから採択しました。

陳情

湯坪下区長 武田仁氏からの「町道認定を求める陳情」

大字湯坪に位置する、町道樋の口松山線終点より県道飯田高原中村線の間、約320mで現在農道として管理されている道路で、地区民の生活道路としても利用されていることから採択しました。

川上一区長 金田富重氏からの「町道認定を求める陳情」

大字松木に位置する、町道書曲川上線より分岐する宝八幡宮駐車場までの約40mで、周辺には数多くの文化財が点在し観光面も含め地域振興が期待できることから採択しました。

総務建設産業常任委員会 審査報告

議案
2件

陳情
3件

可決された案件

道路認定については、

「吉部黒子線」は吉部線分岐より無田硫黄山線までの区間で、これまで

まで関係者で維持管理してききましたが住宅等もあり生活道路としての機能が高いことから認定するもので可決しました。

道路廃止については、

町道吉部黒子線は路線の追加認定を行いたいのので終点位置の変更が生じるために現町道を一旦廃止するものであり可決しました。

「小山線」は、県道飯田高原中村線から分岐し三差路までの区間でこれ

大分県地方自治研究センター理事長 中山敬三氏からの「地方財政の充実強化を求める意見書提出に関する陳情」

行なうためにも、地方財政計画、地方交付税及び一般財源総額の拡大に向けて政府への働きかけが必要なことから採択しました。

公共サービスの確保や地方税財源を確保することは自治体にとって重要で、安定的な行政運営を



30人以上の学級での授業風景



湯坪下の道路



川上の道路

ずばり町政を問う

6人の議員より一般質問

選挙管理委員会のあり方



江藤 一幸

若者の政治参画を促したい。

● 業務内容及び意識調査は

江藤 選挙以外の業務内容は、また、意識調査は行っているのか。

選挙委員長 選挙人名簿の調整及び、明るい選挙の啓発・推進を行い、3ヶ月に一回、委員会を開催している。

アンケートは全国的なものを参考とし、町独自では行っていない。

● 若者に対して啓発すべき

江藤 若者に対する啓発や政治参画を促す対策が必要ではないか。

選挙委員長 若者の投票率が低く、取り組みが必要。今のところ、具体的な取り組みは行っていない。

江藤 若者や女性が議会に出やすい環境づくりなど、打開案を関係機関において協議すべきだ。

選挙委員長 若者や女性も、政治に対する関心を高めてもらう対策を取りたい。

定住一万人対策

雇用対策が課題

● 定住対策成果と課題

江藤 厳しい現実の中で掲げた定住一万、成果と課題をどう整理しているのか。

町長 農業関係では、協同体としての活動が有効であり、拡充する。

今後は農家の主体的な取り組みが必要と考える。観光面では、滞在時間を延ばす取り組みを行っているが、宿泊客の増加につながっていないことが大きな課題である。

江藤 住宅対策の成果はどうか。

町長 空家への定住が11件、北代住宅へ町外より7世帯21名が入居した。

● 子育て支援

江藤 定住促進には、子育て支援も含めてあらゆる支援策を検討すべきだが。

● バイオマス雇用を活用を

江藤 町内の木材を利用した、バイオマス利用によつて雇用の場を創出できないか。

町長 町も21年に構想を立て、調査・研究して来たが、採算面で非常に厳しい現実がある。バイオ

町長 雇用の確保も大事である。持続可能な町づくりに向けて検討する。

● チャンスを逃がすな

江藤 職員も業務多忙の中で大変だと思うが、町民にとって大きなチャンスにつながる情報を見逃していることが多いと聞いている。

具体例をあげながら、強く改善を求めた。



子育て真っ盛り「乳児健康相談会」

大吊橋の町民への効果

町民へ活用法を伝えていく

震動の滝への散策道

実現は厳しいと考える



有吉 富生

● 大吊橋の効果は

有吉 大吊橋の収入、町民への効果はどうなっているのか。

町長 50名を雇用、特産品の販売、売り上げの一部は、町民の福祉に充当している。

有吉 安定した収入は安心だが、可能な限り、使い道を町民に示すべきではないか。

町長 今後は、町民にも、お伝えできるようにしていきたい。

● 震動の滝への散策道

有吉 震動の滝、滝つぼへの散策道が検討されていたと思うが、新たな観光の目玉として、県との協議は継続しているのか。

町長 現場の状況から、散策道としての階段の設置は困難である。

エレベーターの設置には8～9億円かかり、断念すべきと考えている。県との協議を行う前に、当町の考えを整理する必要がある。



震動の滝

空家の有効活用と危険家屋の対策は

現在9戸が登録

個人所有のため厳しい

● 空家対策の成果

有吉 有効活用策の成果は上がっているのか。

町長 調査結果は、空家260戸、利用可能182戸、危険家屋78戸であり、有効活用策で11戸が合意している。現在9戸が登録されている。

● 危険家屋の対策は

有吉 調査で明らかになった78戸の危険な空家。対策は取れないか。

町長 県内5市で条例も制定されたが個人所有のため厳しい状況もあり有効策とはいえないとの情報も得ている。国も対策案の検討をはじめたので、見守りたい。

行政区の再編どうする

行政主導では取り組まない

有吉 高齢者世帯、ひとり世帯では、行政区の活動が負担になるといった声を聞く、町として行政区の検討が必要な時期ではないか。

有吉 課題はあっても、行政区が大きくなればメリットもある。町民が安心して、くらせるように検討すべきだ。

町長 共有財産の問題など、さまざまな課題もある。行政が再編を主導することは避けたいが、行政区間の調整ができ、要望があれば支援していく。

町長 将来の人口減、戸数減、こういったものも含めて、区長会の考えも聞きたい。



行政区の協同作業

道州制! どうなる九重町

不安が大きい、反対していく



大津留敏加



道州制は、町の業務に制限の可能性も

平成の大合併(単独の道を 選択)検証したのか

大津留 平成16年、合併せず、単独の道を選択したが、どう検証したのか。

町長 合併した自治体の一部から、合併の目的は町民の福祉向上なのに、合併そのものが目的になっていった、との声もあり厳しい現実もあるようだ。

大津留 合併した自治体の情報を聞きたい。
町長 それぞれの地域で検証していると思うが、都市部より周辺部の疲弊が大きいということが、一番の課題だと考える。

道州制の危険性

大津留 もし、道州制が導入された場合、九重町の町民にとって、デメリットをどう考えるのか。

町長 大きな町が基礎自治体となるだろう。当町にできる業務も制限される可能性もあり、都市部と格差ができることを心配している。

作業効率も悪くなることから強く反対をつづけている。

災害対応への 影響

大津留 過去、当町も自



自治消防の核、九重町消防団

然災害により貴重な人命を亡くしている。道州制導入で災害対策に関する影響をどう考えているか。

町長 災害対応に重要なのは、きめ細やかな、自治消防の活動であり、これに影響が出ることを心配している。また、広域になることによって、各地区の災害状況の把握も心配される。現に、東日本大震災の対応で、ある村長さんが「合併しなかったことで、自治消防のきめ細やかな活動が出来た」との発言もある。

ワンポイント

道州制って何

現行の都道府県制度を廃止して、複数の都道府県を統合した面積規模を持つ、広域行政体をつくり、自立のための権限を与える制度、これが道州制です。

九重町はどうなる?

現市町村にあたる、基礎自治体の人口を30万人以上と考えると、九重町は、日田や佐伯を含む、いわゆる小選挙区割の範囲が予測されます。

国では、県がなくなり、基礎自治体に業務を移すのであり、今の市町村はそのまま残ると説明しています。

しかし、その基礎自治体の中心が、都市部になることは、当然予測できますし、我々の九重町は、周辺部となってしまいます。



藤原
三治

より豊かな老後を送る仕組み

間接的な協力はしていきたい

● 活いききハウス 事業

藤原 高齢者の生きがい対策である、活いききハウス事業の実績はどうか。

町長 予算も増額し、200万、現在まで32棟ほど設置。販売先は、福岡を含め、直販の形で行っている方が大半である。

藤原 園芸作物だけでなく、山菜など個性的な作物に取り組むべきでは。

町長 園芸作物に、こだわらるわけではない。作物



活いききハウスによる耕作

の選択は個人の意向に沿うべきと考える。

● 生きがいに 山羊とミツバチ

藤原 高齢者の生きがいとするため、山羊の飼育とミツバチに支援すべき。

町長 山羊の飼育は、生きものでもあり、生活に制限も受ける。あくまで個人の志向であるべき。

ミツバチは、希望する団体に2回支援を行い、研修も行われたと思う。団体の中での研究を重ねて欲しい。ふるさと館にも蜂蜜の需要があるが、品物がないので協議してはどうか。

いづれも、間接的な協力はしていきたい。

● ライフデザイン ノート活用 してはどうか

藤原 高齢者が自分の生き方を残す自分誌、子

や孫へ伝えたい想い、自分にまつわる全てのことを記していくノート。

九重町で取り組めないか。

町長 これらは、個人的な情報が多く含まれることから行政が進めるべきものかわからないが、あくまで本人の自主性で取り組むべきと考え

定住一万人対策

調査研究を進める

● 1ターニン・Uターニンの 受け入れ対策

藤原 1ターニン・Uターニン希望者からの相談への対応はどうしているのか。

町長 電話での対応を行い、希望者には職員が実物を案内している。

藤原 全国の事例では、土日祭日、夜間でも対応している。民間の協力も頂き、相談対応を充実さ

せてはどうか。

町長 休日の希望があれば、対応しているが、基本的には、平日の間をお願いしている。

行政の仕事と考えているが、先進自治体の調査研究も進めていきたい。

● 空き家の 有効活用

藤原 空き家を有効活用するために、荷物を整理

する倉庫があれば有効。

その工事に助成できないか。

町長 倉庫の改修に助成は考えにくい。

空き家登録が不足している現状から、事例などを学びながら、まずは空き家を確保することを優先させたい。



「ふるさと館」で直販されている野菜類

旧中学校 跡地利用(案)



佐藤 明郎

町民の意向を尊重し、財政面も加味する



充実が望まれる社会体育での体育館利用

● 体育館の面積 半分の規模に

佐藤 体育館の利用者は多い。面積が半分程度になれば現在利用している町民が制約をうけることになる。

町長 財政的なものから提案した施設で利用して欲しい。

佐藤 災害時の避難場所として、検討が不十分ではないか。

町長 小学校体育館も含め、見直しは必要だが、ある程度、場所の確保はできると考える。

● 町民プールと 温泉館

佐藤 今回、町民へ提案した案の中に町民プールの計画がある。温泉館との関係を示していないのは町民に対して不親切ではないか。

町長 温泉館がプールにかわれば、閉鎖になり、説明不足であった。

● 町民の意見に どう対応する

佐藤 今回、町民から寄せられた意見・要望に対し、どの様な対応するのか。

町長 パブリックコメントの目的は、民意を最大限に生かすことであり、協議、説明を重ね、町民との意見合意に努めていく。しかし、内容変更によつては、年度を延長せざるを得ないことも理解して欲しい。

● 体育館を耐震化し 現面積維持を

佐藤 最大限、民意を尊重というなら、財政面が許せば、体育館を耐震化し、現面積確保も可能と理解してよい。

町長 財政が許せば、計画を先送りしながらでも、民意を生かせる部分は生かして行きたい。

活きいきランド 町民に支障ないか

学校・町民 併用できている



代替場所に! (旧東飯田中グラウンド)

● 町民の利用に 支障は

佐藤 町民スポーツの拠点に活きいきランドを設置。開校後も、町民に開放すると説明したが現状はどうか。

教育長 活きいきランドは町民のスポーツ交流基地として設置。学校、社会教育課、教育振興課で利用

用方法を申し合せ、広報で町民に伝え、現在、学校と町民が併用している。

佐藤 町民に不自由させていないというが、グラウンドゴルフ以外の種目も、様々な声がある。

教育長 初めて、その様な声を聞いた。中学を優先しながら、ご理解を頂きたい。

● 中学校がかわいそう 代替場所の検討を

佐藤 中学校が出来て、使いにくいとの声は。中学校が、かわいそうだ。

実際、中学校を優先させるのであれば、グラウンドゴルフや野球で自由に使える、代替地(例えば旧東中グラウンド)を一定の整備をして使ってもらうのが行政の責任でもある。

教育長 別の場所の整備は、別の話であり、今後の課題として、検討したい。

● その他

人権啓発に取り組む姿勢を質しました。

奥野町有施設(伍代施設跡)の有効利用は

意見集約をし、早急に利用計画をつくる



井上 墨子

● 調査委員会は機能しているか

井上 町は奥野の伍代施設跡を23年1月から2月にかけて購入したが、その有効利用について調査するため、奥野町有施設有効利用調査委員会が4月19日に役場内に設置された。1か月後の5月20日に、調査結果として、「伍代跡地は子ども総合センターの整備がベストである」と報告された。それから2年近く経過した昨年2月に、町が森林組合加工所跡地を購入したこと、総合こども園の整備は伍代跡地よりも森林組合加工所跡地の方が適しているということになった。それで、伍代跡地の有効利用の方は白紙の状態に戻っている。23年4月に設置された有効利用調査委員会は再び機能しているのか。

町長 有効利用調査委員会は、「跡地利用として最終的に子ども園の整備がよい」と報告した後、23年5月に解散した。

● いつ頃までに決めるのか

井上 調査結果が23年6月に議会に報告された際、報告書に跡地の有効利用として、子ども園の整備以外に5つの案が示されていた。それらは調査委員会委員である町職員が知恵を絞って考え出した利用案だと思うので、それらを大切に、それに跡地周辺住民の要望も参考にし、新たな案も合わせて調査検討し、早期に有効利用を決めてもらいたい。いつ頃になるのか。

町長 昨年全職員から有効活用について約30の提案が上がってきている。

今年4月に、関係課4課で会議を持ち、農協、商工会等の意見も聞きながら有効活用の方法を図ろうとしている。「町民が考える町づくり会議」からも意見を聞き、6月25日には現地を見てもらう。それらを受けて早急に利用計画を作る。来年度予算要求時期の12月前には、方向性を出したい。

● 駐車場の購入は

井上 伍代施設跡をどのように利用するにしても横の駐車場を購入しなければ有効利用はできない。現在町は駐車場を賃貸で借りているが、私は今回この件で質問するにあたり、駐車場の所有者のところに調査に行った。「町との土地賃貸借契約では期間は2年間で、それが終わった際に町が駐車場を購入することがセットになっていた。しかし購入されなかったので、契約を

2年間延長しているが、待つのも限界なので、早く切りをつけてもらいたい」と強く要望されていた。町は駐車場の購入についてどう考えているのか。

町長 地主さんから早くなんとかしてほしいと言われ何度か話に行った。行政が公的なものをする時、計画が決まって、予算づけして、税務署から認められれば税金の控除になる。できるだけ早く秋までには何とか決めたいと思っている。

● 「ふれあい懇談会」の着実な実施を

井上 第4次総合計画重点施策の実施事業の一つとして、町が25年度から取り組んでいる「ふれあい懇談会」は、実施状況、実施予定がよく見えない。この事業は、「職員が地域に出かけ、住民とふれあう機会を増やし、地域のかかえる問題や町づくりの課題等について、定期的に懇談するもの」と受けとめている。実施内容や実施方法を工夫し、着実に実施を。

町長 25年度は事業としては実施できていないが、関連する取り組みはいくつか実施している。

26年度の実施計画は、地域で住民が集まる機会を利用して、懇談会等を実施していく。職員が住民とふれあうことは大切である。職員に十分徹底し、地域に出ていって一緒に活動していくことも「ふれあい懇談会」の一つとして取り組んでいきたい。



伍代跡と駐車場

研修報告

議会議長研修報告

坂本 憲治

全国町村議会議長、副議長研修会に参加し、その中で民俗研究家の結城登美雄氏の講演を拝聴しましたので報告したいと思います。

地域づくりを考える
地域とは何だろう
家族の集まりである
家族とは何だろう
一緒に耕し、一緒に食
べる者たちである

明治の初期、日本は71,314の小さな村の集まりだった。村の平均規模は60〜70戸、人口は

370人位だった。小さな村は「なぜ」何百年も暮らしの場であり続けられたのか？（その力は何か考えよう）

地域づくりとは何だろう。家族の願いと期待、悩みと課題は何か。どうすれば実現、解決するのだろうか？

①個人の力 ②家族の力 ③みんなの力

同じ願いや悩みをもつ個人と家族が協力して、みんなの力で実現解決にあたる。それが「地域づくり」である。

地域に暮らす家族はどんな願いや悩みを抱いているのだろうか!!（おでかけ議会等で話してほしい課題です）

よい地域の7つの条件とは、

- ①よい自然風土があること
- ②よい仕事の間があること
- ③よい居住環境があること
- ④よい文化があること
- ⑤よい仲間がいること
- ⑥よい学びの間があること
- ⑦よい行政があること

『美しい村などはじめからあったわけではない。美しく暮らそうという村人がいて美しい村になるのである』（柳田国男）
九重町も日本一の村目

議会運営委員会研修報告

佐藤 勝憲

5月7日より9日までの3日間、島根県邑南町と鳥取県日南町へ議会運営を中心とした視察を実施しました。

邑南町では、「議員定数等のあり方」について、「議員定数等調査特別委員会」を平成19年に設置し、小委員会で基本条例を立案しています。特色は、議会運営で詳細に条例を規定せず、委員会条例や会議規則、傍聴規則などの例規を見直し、簡素にわかりやすく定めています。いかにして実践で使いやすい規則に定めているかが理解できました。

また、「日本一の子育て村構想」では、助成制度を使いやすくするため、多岐に渡り、支援策

ざして前進しましょう。最後に結城先生の「知る為に学ぶな、生きる為に学べ」の言葉で報告とさせていただきます。

に一口説明を添えていました。住民目線にたった支援策のあり方には、一考すべきと感じています。

日南町では、町長より施政方針の説明がありました。その中で、「創造的過疎のまち」とは、日本社会の30年後の過疎が日南町には現実にある上で、30年進んだまちづくりをすることだそう

す。人口減少を、緩やかにするための対策を取っているそうです。また、議会においてはタブレットを議会導入し

広報委員会研修報告

日野 康志

熊本県多良木町と和水（なごみ）町で、広報誌についての研修を行いましたので報告します。

多良木町では、表紙の写真は常に縦向きに撮り、住民の活きいきとした顔を中心に撮ることを心掛けているそうです。

一般質問の字数は、質問で260字、解答で390字と少なくし、字を大きくしたり関連写真を多く掲載し、読みたい議会広報誌を目指しているそうです。また、当初予算の主なものについては、写真に説明欄をうまく活用していました。

和水町では、審議結果を表にして掲載したり、「議会のうごき」や「傍聴席から一言」など、それぞれに工夫していました。

ていました。今後のことを考えると、ペーパーレスは必要であり、経費削減や簡素化に向けた取組みが必要と考えました。

両町の議員に共通しているのは、議員身から「読みたい、読みやすい広報誌」を目指していることです。これは、どの議会の広報誌にも共通していますが、違うのはそのために何をどう掲載するかだと思います。考えることは必要ですが、それをどう行動に移すかが大切と考えます。

これからも、住民の側に立って「読みたい議会広報誌」を目指し、参考になった他町村の良い所を活用して、改善に取組んでいきます。



あたしのひとこと

『人形劇サークルわくわく家』

野上西
河野 安代さん



「人形劇で町内の子どもたちを楽しませたい」という思いで集まった9名で2010年『人形劇サークルわくわく家』を結成しました。

脚本、舞台、人形、音楽全てを



『人形劇サークルわくわく家』の活動風景

自分たちで作ります。人形制作と練習に約半年かけ、その後は月1回ペースで町内の児童館や幼稚園や小学校で上演しています。人形が登場すると、子どもたちは食い入るように観てくれます。その眼差しが私たちの一番の喜びです。

人形劇は観客にすごく近い舞台です。メディアでは味わえない生の舞台の面白さがあると思います。現在は4作品目の「さるとかにのおはなし」を巡演しています。1時間の公演では他に歌遊び、影絵、パネルシアター等もします。

今後、私たちが目指すものは『ライブ感』です。狭い会場で子どもたちとの一体感を大切に、その瞬間ならではのやり取りができたら嬉しいです。九重町の子どもたちに『わくわく』を届けたいと思っています。

高齢化に向けて思うこと

中村上
有吉 富士男さん



20数年前、私の子どもたちが小学生のころは、中村上組に子どもが30人前後いました。

子ども会活動は賑やかなものでしたが、今では子ども会活動がでない状態だと聞いています。

中村上も今では20代・30代の人々が数人しか居なくなりました。

回りには、一人暮らしのお年寄りが増えているのが現状です。

私も還暦を過ぎ、周りの人に迷惑をかける時がいつ何時来るかもしれません。

以前から思っていたのですが、近所の一人暮らしのお年寄りに声掛けをしたいと思いつつも、忙しさを言い訳にいまだに実行できていません。

行政ではITを利用した活動も

されているようですが、身近な地区の人たちの声掛けができればもっと安心できるような気がします。

ボランティアの活動もあります。が、そこまで行けないのが現状です。

これからもっと進む高齢化に対して地域としてどう向き合っていくべきなのか、私個人としてもどう向き合っていくべきなのか、わかりませんが地区の皆さんと共に助け合っていけるような活動ができたらいいなと思っています。

実行できるかどうか分かりませんが、行政や町づくり協議会の方々のアドバイスをいただければ幸いです。



独居老人への給食ボランティア活動

スキー客で賑わう
旧宮原線麻生釣駅
(昭和30年頃)

傍聴へ どうぞ

次回は9月です



議会だよりについて
ご意見をお聞かせください。【議会事務局：76-3814】

編集 後記

◆ 昨今、政治家による問題発言が続いています。発言した本人の真意は、私には知る由もないので、良し悪しについては避けたいと思いますが、私が勝手に思うのは、自分の発言によって相手が、どんな思いをするのか、人間関係の基本である「思いやりの心」が問われているのではないのでしょうか。性別とか立場ではなく。

今回のことを自分なりに考えている内にフツと我に返りました。町民の意志を代表する機関として活動する機会、そしてその一員である私自身、思いやりの対象は、身の回りの人だけであってはなりません。

話す機会のない町民、会う機会すらない町民の方々も多いはず。

町の隅々で「困り」を抱えながら暮らしている方々に想いを馳せて活動ができていいのか、再認識させられました。

佐藤 明郎

・広報委員長 日野 康志
・副委員長 佐藤 明郎
・委員 井上 里子
・委員 小川 克巳
・委員 佐藤 博美
・委員 池部 俊慈